

シンポジウム 2-5 (口腔外科)

群馬大学における endodontic microsurgery の導入と根尖病変に対する治療戦略

小川 将, 横尾 聡

群馬大学大学院医学系研究科 口腔顎顔面外科学講座・形成外科学講座

歯根嚢胞, 難治性根尖性歯周炎の治療には病変の完全な摘出と原因歯に対する処置を確実に行うことが重要である. 歯根嚢胞に対する外科的治療は, 嚢胞を完全摘出し手術創を閉鎖する Parctsch II 法が一般的であり, 症例に応じて, 嚢胞を開窓し口腔に副腔を形成して嚢胞上皮と口腔粘膜上皮の一体化をはかる Parctsch I 法や, 嚢胞の完全摘出後開放創とする Parctsch I 法の変法 (packed open 法) も選択される. 多くの場合で原因歯の処置として歯根端切除術が併用されるためその治療成績を向上させることは極めて重要である. 近年, マイクロスコープを利用した endodontic microsurgery を施行することで歯根端切除の治療成績が飛躍的に向上している. しかし, 多くの大学病院口腔外科や病院歯科口腔外科において未だにマイクロスコープが導入されず, 肉眼的歯根端切除が施行されているのが現状である.

群馬大学医学部附属病院歯科口腔・顎顔面外科では 2007 年より歯根端切除を行う際には全例でマイクロスコープを使用している. 現在まで 240 例に対して endodontic microsurgery を施行しており, 臨床的評価および X 線学的評価を合わせた総合評価で治療の成功率は 92.2% と極めて良好な結果を得ている.

今回のシンポジウムではわれわれが大学病院口腔外科においてマイクロスコープを導入した経緯, 手術室で円滑にマイクロスコープを使用するための準備や工夫, 治療戦略について紹介するとともに, 治療成績について報告する.

2008 年 3 月 九州歯科大学卒業

2008 年 4 月 群馬大学医学部附属病院歯科口腔外科研修医

2010 年 4 月 群馬大学医学部附属病院歯科口腔外科医員

2011 年 9 月 群馬大学医学部附属病院歯科口腔外科助教